草苑保育専門学校 学校関係者評価委員会 報告書

日　時：2026 年 3 月 4 日(水)13:00～14:30
場　所：草苑保育専門学校 大会議室
出席者：保護者からの委員
学校運営有識者からの委員
地元法人・業界関係者からの委員
地域住民からの委員
阿江美知代 自己評価作成責任者／草苑学園理事／草苑保育専門学校学校長
竹原有基 草苑学園評議員／草苑保育専門学校教務部長
欠席者：なし

議　事
【学校からの報告と資料説明】
自己評価報告書対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日
「専修学校における学校評価ガイドライン」（文部科学省）にしたがって自己点検・自己評価を実施したもの。2024 年度の自己評価報告書について、以下の観点から報告・説明がなされた。

1. 本校の教育の理念・目標・育成する人材像
キリスト教の精神を基盤とした建学の理念が引き続き明確に共有されており、毎日の礼拝や年間主題聖句の活用も定着している。創立 70 周年を迎えた本年度は、記念事業を通じて建学の精神に立ち返り、「高度な専門知識と深い愛にあふれた思いやりのある保育者（寄り添う保育者）」の育成という目標が教職員間で改めて確認された点が評価された。キリスト教学校教育同盟への加入も継続し、他校との交流・研鑽が図られている。
〈2024 年度年間主題聖句〉
「知れ　主こそ神にますなれ。われらを造りたまへるものは主にましませば我らはそのものなり。われらはその民その草苑のひつじなり。」
（詩篇 100 篇 3 節）

2. 学校運営
各部門の運営方針が整理され、法人ガバナンスも機能している。最小限の運営体制ながら情報共有と協力が進んでいる点が評価された。定員是正に向けた「保育士養成コース」の 2025 年度開設準備が着実に進み、東京都への新規指定手続きと学則変更が完了したことが報告された。今後は事業計画の中長期的な体系化と、意思決定システムを生かした PDCA の実効性強化、私学法改正への対応、情報システムの全学的整備が課題である。

3. 教育活動
国家試験免除の特典にふさわしい実力ある保育者の育成を軸に、授業評価アンケートにより求められる水準の授業がほぼ完全に行われていることが確認された。指導大学である青山学院大学の協力を得たカリキュラム編成や、就職ゼミ・公務員試験対策講座など、きめ細やかな指導が継続されている。一方、成績評価の客観性向上、オンライン授業体制の未整備が引き続きの課題として指摘された。Slack の導入により教職員間の連絡体制は大きく改善している。

4. 学修成果

就職希望者の専門就職率 100％を維持しており、現場との接続における信頼性が高い。卒業生の就職先は保育所・幼稚園・認定こども園のほか、公立公務員、児童館・学童、福祉施設など多岐にわたり、社会的評価も高い。今後は 1 年次からのキャリア意識形成を強化するとともに、離職防止に向けた卒業後フォローと現場からのフィードバックの仕組みづくりが求められる。資格・免許の取得率は本科生でほぼ全員が達成しているが、退学者の低減が大きな課題である。

5．学生支援

クラス担任制を基盤に、学生支援センターを中心とした多面的な支援が定着している。中途退学防止については、出席データや学期中アンケートを活用した早期把握と、教職員連携による組織的対応が進んでいる。2023 年度後期に導入した学生ポータルでは保護者登録を推進し、家庭との連携強化が図られている。今後は多様な背景を持つ学生に対応する相談体制（カウンセラーを含む）のさらなる充実と、卒業生への継続的支援が期待される。

6. 教育環境

老朽化した校舎について、安全性の確保と教育現場の声を取り入れた計画的な整備が継続されている。70 周年記念事業の一環として講堂の大規模改修が完了し、礼拝・演奏会・卒業式等で活用が始まった。ICT 環境の整備や業務効率化も進展している。一方、ラーニングコモンズの整備や専門書の充実、実習先（特に児童福祉施設）の確保、防災・安全管理の継続的訓練が引き続きの課題である。

7. 学生の募集と受入れ

アドミッション・ポリシーに基づく募集活動と、選考基準・日程の適正な運用が確認された。学校案内・動画・ホームページに加え、Instagram・LINE 等の SNS を活用した情報発信が教職員一体で進められている。学費支援制度に関する正確な情報提供も行われている。特に 2025 年度新設の「保育士養成コース」の特色の明確化と、Web を中心とした広報のさらなる強化が課題として挙げられた。

8. 財務

教育目標達成を重点とした単年度予算編成と、月次の予実差異把握による予算管理が実施され、教職員の予算意識も徐々に醸成されている。監査は独立監査人・監事により適切に行われ、財務情報は学園ホームページで公開されている。70 周年記念事業ではクラウドファンディングをはじめ多くの寄附が寄せられ、物心両面の支援に支えられた。入学定員・収容定員の充足に向けた一層の努力と、計画性・規律ある財務運営が引き続き重要である。

9. 法令等の遵守

法令遵守は、精神においても実務においても確立されている。外部情報を適切に取り入れて関係法令の動向を把握し、対応する内規の管理も行われている。個人情報保護についても問題は生じていない。自己評価に加えて学校関係者評価を実施・公表しており、今後は第三者評価の導入に関する検討が課題である。

10. 社会貢献・地域貢献

慢性的な保育者不足が続く社会において、質の高い保育者を安定的に養成すること自体が長期的な社会貢献であるとの認識が共有された。隣接する草苑幼稚園との園芸・保育実践演習を通じた共同活動や、収穫物の近隣提供、学生主体の文化祭（草遊祭）、オレンジリボン活動などが継続され、高い評価を受けた。次年度からはボランティア活動を授業の一環としてカリキュ

ラムに組み入れる予定である。東京都からの委託訓練（離職者の再就職支援）も継続している。

11. 討議

委員 A：2025 年度に開設する「保育士養成コース」について、定員是正の趣旨も含め、開設に向けた準備状況と今後の見通しを教えてほしい。

学校：文部科学省の実地視察での指摘を踏まえ、定員の是正を主たる目的として、保育士資格に特化した「保育士養成コース」を 2025 年度に開設することとした。2024 年度は東京都への新規指定手続きと、それに伴う学則変更を完了させた。現行の幼稚園教諭・保育士コースで実施してきたゼミをトライアルとし、探究的な学びや、学生自身が保育の意義を主体的に問い直す授業設計を準備している。教職員間でもカリキュラムのねらいと各科目のつながりを共有する機会を増やし、保育現場のニーズに即した実践的教育への転換を進めている。今後は近隣の保育系施設や実習科目との接続を工夫し、2 年間を通じた学生の成長を支えていきたい。

委員 B：創立 70 周年記念事業について、講堂改修をはじめ一年を通じて取り組まれたと聞いている。教育面・地域連携面での成果はどうか。

学校：学園創立 70 周年を記念し、講堂の大規模改修を行うとともに、記念礼拝・祝賀会（6 月）、感謝礼拝、記念コンサート（12 月）を年間を通じて開催した。クラウドファンディングをはじめ多くの寄附をいただき、物心両面で支えられていることに改めて感謝している。改修した講堂は木の温もりと最新の音響・照明設備を備え、礼拝や演奏会、卒業式などで活用しており、学生にとっても誇りを感じられる学びの場となっている。地域にとってのプラットフォームとなることも目指している。また、4 年ぶりに開催したホームカミングデイ（12 月）には約 50 名の卒業生が参加し、乳児から第一期生まで多世代が同じ空間で過ごす有意義な機会となった。

委員 C：退学者や学修不安を抱える学生への支援について、本年度の取組と手応えはどうか。

学校：2024 年度も、経済的支援・学習支援・心のケアを担う「学生支援センター」を中心に、クラス担任制を生かした多面的な対応を行った。学修に不安を抱える学生には、授業担当者と連携した補習的サポートや面談の機会を設け、教職員が役割分担しながら関わる体制づくりを進めている。出席データや学期中アンケートをもとに学生の状況を早期に把握し、フォローにつなげている。退学者は依然として課題が残るものの、各部門での対応が組織的になってきたと実感している。今後は相談窓口の多様化と、自ら相談に来にくい学生へのきめ細かなフォローを強化していきたい。

12. まとめ

本校の強みとしては、キリスト教の精神に根ざした一貫した教育理念、国家試験免除による資格取得体制、毎日の礼拝や行事を通じた実践的な学び、そして専門就職率 100％という高い就職実績が挙げられる。創立 70 周年記念事業を通じて、建学の精神を教職員一同で再確認できたことも大きな成果である。

一方で、改善点としては、2025 年度開設の保育士養成コースに伴う定員およびカリキュラムの定着、成績評価の客観化、ICT および図書環境（ラーニングコモンズ・専門書）の整備、退学防止策のさらなる強化が指摘された。

今後の重点課題としては、学修環境の充実、システム統合とデータ活用（IR）の推進、第三者評価の検討、地域および卒業生との連携強化、私学法改正への適切な対応が求められる。

(閉会)

次回予定：2027 年 3 月頃